

# 特定の資格を必要としない / 多様な経験を活かせる職種

「ボランティアをやりたいけれど、どの職種で応募すればよいのか分からない」「私は文系なので応募できる職種は無いのでしょうか？」というような相談をしばしば受けます。「看護師」や「自動車整備」のように必要とされる経験や資格が比較的明確な職種もありますが、中には「コミュニティ開発」のように日本ではあまり馴染みのない職種名であったり、職種の名前だけを見ていると良く分からない職種があります。このページでは多様な経験を生かせる職種を取り上げ、ボランティア活動を実践する上で有益な能力や経験、資格について紹介します。応募に際して参考にしてください。

## 「コミュニティ開発」

|                           |  |
|---------------------------|--|
| <p><b>【概要】</b></p>        | <p>コミュニティ開発は、地域に住む人々とともに、住民が望む生活向上や地域の活性化に寄与することを目的としています。地域においてフィールドワークを行ったり、住民参加型のワークショップを企画・運営して、地域の状況や住民のニーズを把握することが出発点となります。</p> <p>次に、研修やセミナーを実施することによって、住民たち自身が地域の資源やさまざまな課題に気づき、話し合いを通して解決策を探っていくことが重要となります。さらに、実現可能なプロジェクトを計画・実践し、地域にふさわしい事業と協力支援活動の展望を示すことも活動の一つです。</p> <p>コミュニティ開発の隊員には、地域調査能力、課題発見力、企画立案力、業務調整能力、コミュニケーション能力などが求められます。</p> <p>以下は、コミュニティ開発の隊員として一般に有益と考えられる能力・知識・経験の例です。</p> |
| <p><b>1. 能力</b></p>       | <p>地域開発の基本 5C</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Commitment: モノや人に関わろうとする意欲</li> <li>● Communication: 相互に意思を伝達できる力</li> <li>● Comprehension: トータルに文化や社会を理解する力</li> <li>● Coordination: 人と人、人と組織をつなげ、調整する力</li> <li>● Creation: 新しい企画、新しい解決策を創り出す力</li> </ul>   |
| <p><b>2. 経験</b></p>       | <p>1. に記載されている能力・スキルそのものを重視しますが、次のような経験があると自己の能力・スキルを示しやすいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● まちの活性化、地域おこしの経験</li> <li>● ワークショップやイベントの企画・運営、及びファシリテーターの経験</li> <li>● フィールド調査、顧客ニーズ調査の経験</li> <li>● 組織・団体における運営や業務調整の経験</li> </ul>   |
| <p><b>3. 知識</b></p>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 開発学</li> <li>● 社会学</li> <li>● 経済学</li> <li>● 経営学</li> <li>● 文化人類学</li> <li>● PRA, PLA など参加型手法</li> <li>● 異文化理解</li> </ul>   |
| <p><b>4. 活動に役立つ資格</b></p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>① ボランティアコーディネーション力検定3級：日本ボランティアコーディネーター協会</li> <li>② 普及指導員（旧改良普及員）：農林水産省</li> <li>③ 各種ファシリテーション関連資格：国際開発高等機関、参加型開発研究所、その他コンサルタントの研修など</li> <li>④ 社会調査士：社会調査協会</li> </ol>  |



生活改善活動の一環として、自作の表を使って5大栄養素について説明をする青年海外協力隊員（コスタリカ） photo: 今村健志朗 / JICA



一村一品運動として、住民たちと純粋なピーナッツオイルを商品化する青年海外協力隊員（マラウイ） photo: 吉田勝美 / JICA